

# 現地災害調査報告

令和7年8月7日に秋田県秋田市で発生した突風について

## 目次

- 1 概要
- 2 突風に関する分析結果
- 3 現地調査結果
- 4 気象状況
- 5 防災気象情報の発表状況
- 6 被害集計

注)本資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがあります。

令和8年3月31日

秋田地方气象台

## 1 概要

令和7年8月7日15時40分頃、秋田県秋田市下新城(しもしんじょうなかの)で突風が発生し、軽自動車の横転や倒木による車のフロントガラスの破損などの被害が生じた。

秋田地方気象台は、突風をもたらした現象を明らかにするため、8月8日に職員を気象庁機動調査班(JMA-MOT)として派遣し、現地調査を実施した。

調査結果は以下のとおりである。

## 2 突風に関する分析結果

### (1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性のあるものの特定に至らなかった。

(根拠)

- ・被害や痕跡から推定した風向は不規則であり、様々な方向がみられた。
- ・突風はごく短時間(1分程度)であったという証言が複数得られた。

(特定に至らなかった理由)

- ・被害や痕跡、聞き取り調査から、被害をもたらした現象を推定できる情報が得られなかった。

### (2) 突風の強さの評定

この突風の強さは、風速約40m/sと推定され、日本版改良藤田スケールでJEF1に該当する。

(根拠)

- ・軽自動車の横転

《根拠に用いた被害指標(DI)及び被害度(DOD)》

- ・DI:軽自動車(ワンボックス)
- ・DOD:横転(代表値)

### (3) 被害の範囲

被害範囲の長さは約1.3km、幅は約70mであった。

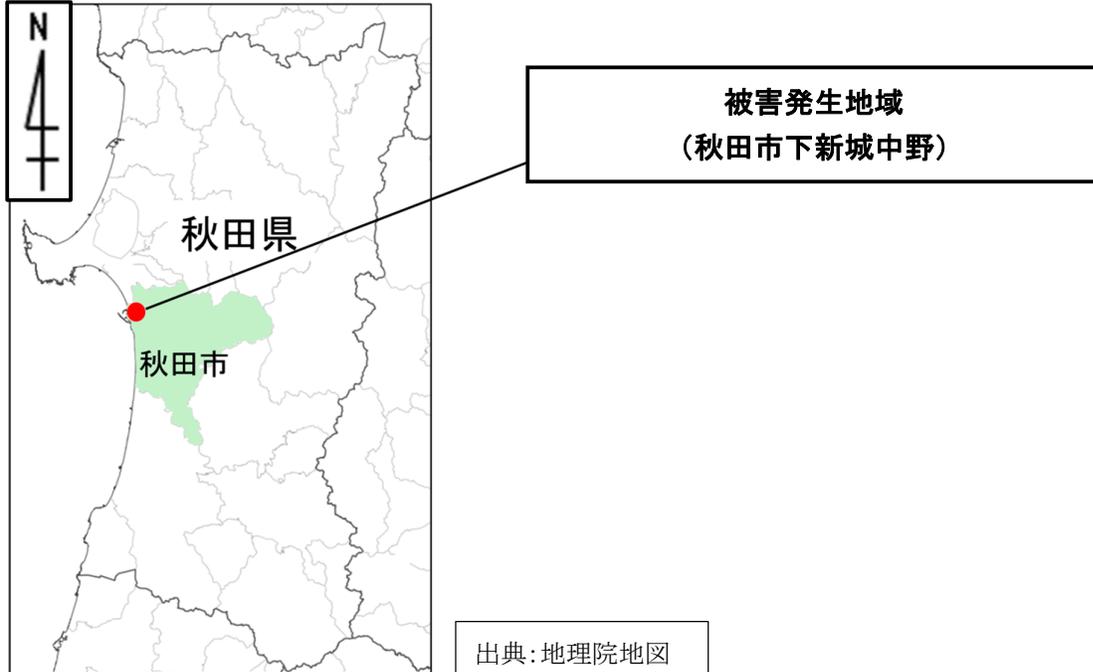
### 3 現地調査結果

実施官署:秋田地方気象台

実施場所:秋田県秋田市下新城野

実施日時:令和7年8月8日10時20分～16時10分

(1)被害発生地域図



(2)被害発生地域拡大図



(風速 凡例)

38m/s 以下	39-52 m/s	53-66 m/s	67-80 m/s	81-94 m/s	95m/s 以上	DOD 該当なし
						

(凡例)

○:被害の発生した地点、色は推定した風速を表す(風速の凡例参照)。

①~⑧ :被害状況(写真と対応)       :物が倒れたり、飛散した方向      A~D :聞き取り地点

(3) 被害状況



①軽自動車の横転  
(秋田県立大学提供)  
(北から撮影)



②倒木による車のフロントガラスの破損  
(秋田県立大学提供)



③松の枝の飛散



④広葉樹の幹分かれ箇所の損壊  
(北から撮影)



⑤松の枝の飛散



⑥栗の枝の飛散



⑦栗の木の枝折れ



⑧トマトの苗の傾き

#### (4) 聞き取り調査結果

##### A 地点

- ・急に雨が強まり、西風で横殴りになった。駐車中の車両が西から順番に揺さぶられて、一番東側の軽自動車が少し浮いて東に横転した。
- ・強い風は1分もないくらいの短時間だった。
- ・雷や風の音は聞こえなかった。
- ・15時40分頃に軽自動車の横転を目撃し、15時43分にスマートフォンにて職員に連絡した。

##### B 地点

- ・15時30分頃、雨、雷の音が聞こえた。
- ・風が強かったのは1分程度であった。
- ・庭のテントが飛ぶのを見た。

##### C 地点

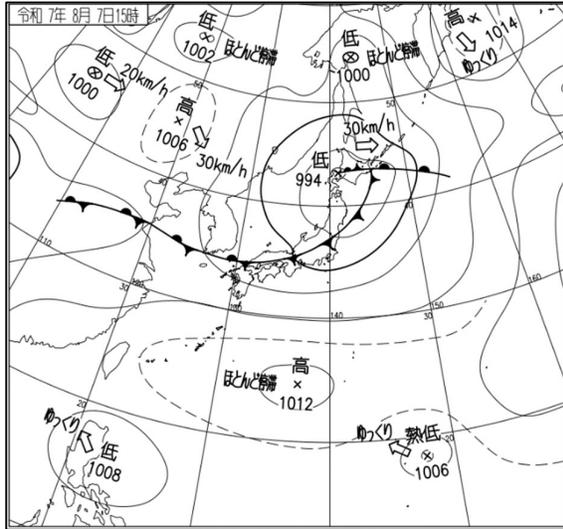
- ・雨の音がしていた。

##### D 地点

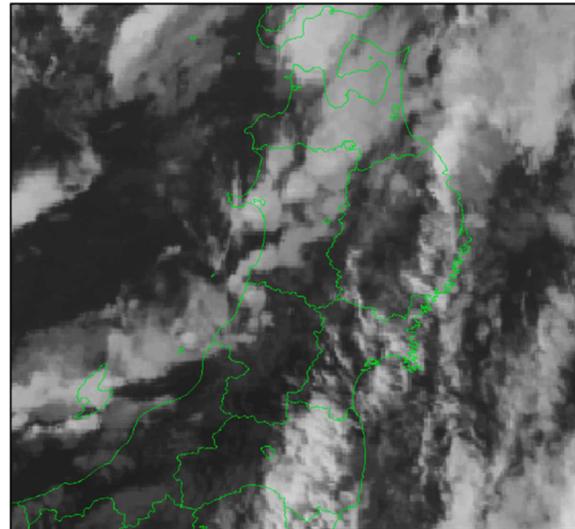
- ・16時前にゴーという風の音が西から東へ移動して聞こえた。
- ・一瞬、家が揺れるくらい強い風だった。継続時間は一瞬で、1分ないくらいであった。
- ・雨の降り方は酷く、ずっと降っており、雷の音が聞こえた。
- ・渦を巻いた雲は見えていない。
- ・雨が落ち着いたところに外へ出ると、家の裏の栗の木が倒れ、家の周りの道路の草がなぎ倒されていて、木の枝や葉が散らばっている状態だった。栗の枝が家の東側の道路に落ちていた。
- ・耳鳴りはなし。
- ・自宅の裏の家のリンゴの木が倒れていた。

#### 4 気象状況

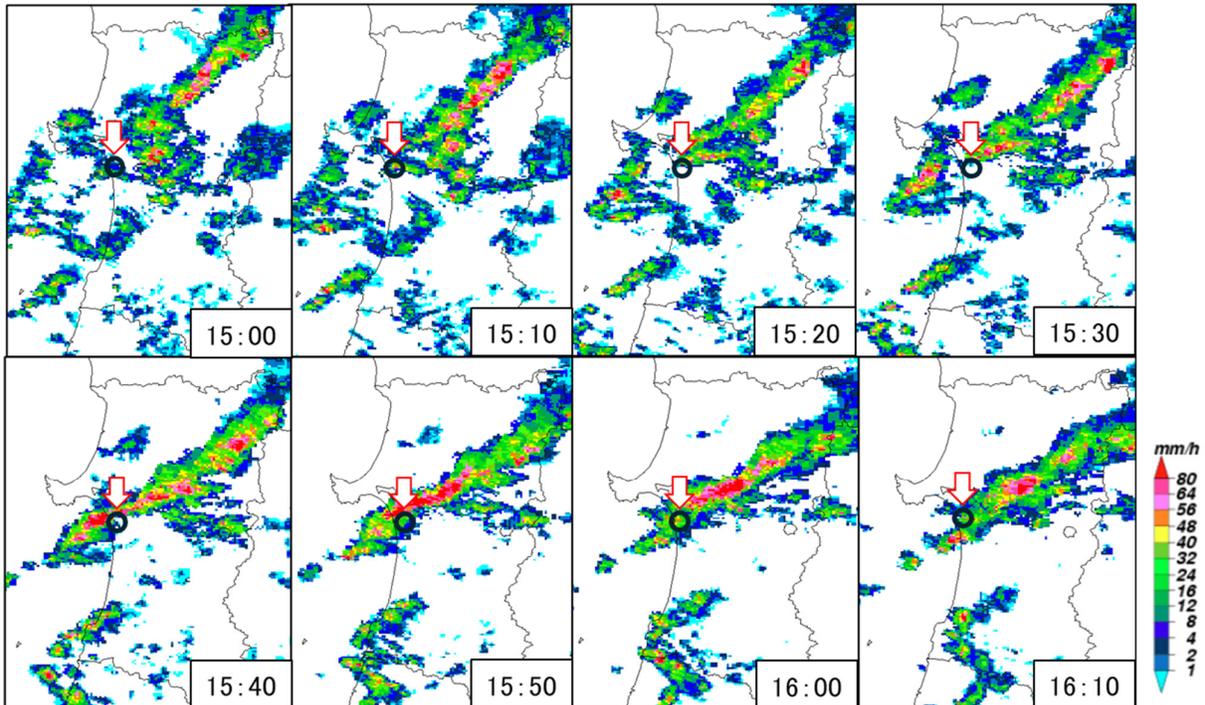
気圧の谷や上空寒気の影響により、秋田県では大気の状態が非常に不安定となっていた。気象レーダーによる観測では、15時00分から16時10分頃に被害地付近を発達した積乱雲が通過中だった。現象発生当時の地上天気図、気象衛星赤外面像、気象レーダー画像は以下のとおり。



令和7年8月7日15時 地上天気図



令和7年8月7日15時40分 気象衛星赤外面像



気象レーダー画像(○=被害地域)

令和7年8月7日15時00分～16時10分

5 防災気象情報の発表状況(令和7年8月7日 秋田市)

(1) 注意報・警報の発表状況

発表日時	警報・注意報
(令和7年8月6日から継続)	大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報、雷注意報、強風注意報
令和7年8月7日04時12分	大雨警報(土砂災害)、洪水警報、雷注意報、強風注意報
令和7年8月7日10時26分	大雨警報(土砂災害)、雷注意報、強風注意報、洪水注意報
令和7年8月7日16時08分	大雨警報(土砂災害)、洪水警報、雷注意報、強風注意報
令和7年8月7日17時19分	大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報、雷注意報、強風注意報
令和7年8月7日17時58分	大雨警報(土砂災害、浸水害)、洪水警報、雷注意報
令和7年8月7日19時18分	大雨警報(土砂災害)、洪水警報、雷注意報
令和7年8月7日20時54分	大雨警報(土砂災害)、雷注意報、洪水注意報

(2) 竜巻注意情報の発表状況

この期間中の発表はありませんでした。

(3) 秋田県気象情報の発表状況

発表日時	標題
令和7年8月6日06時03分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第1号
令和7年8月6日16時23分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第2号
令和7年8月7日05時33分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第3号
令和7年8月7日12時20分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第4号
令和7年8月7日13時13分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第5号
令和7年8月7日16時55分	大雨と雷及び突風に関する秋田県気象情報 第6号

6 被害集計

人的被害・建物被害(令和7年8月7日現在 秋田県総合防災課調べ)

人的被害(人)		住家被害(棟)		
死者	負傷者	全壊	半壊	一部損壊
0	0	0	0	0

## 《参考資料》

### 突風の分類

#### (1) 竜巻

積雲や積乱雲に伴って発生する鉛直軸を持つ激しい渦巻きで、漏斗状または柱状の雲を伴うことがある。地上では、収束性で回転性の突風や気圧降下が観測され、被害域は帯状・線状となることが多い。

#### (2) ダウンバースト

積雲や積乱雲から生じる強い下降気流で、地面に衝突し周囲に吹き出す突風である。地上では、発散性の突風やしばしば強雨・ひょうを伴い露点温度の下降を伴うことがある。被害域は円または楕円状となることが多い。周囲への吹き出しが 4km 未満のものをマイクロバースト、4km 以上のものをマクロバーストとも呼ぶ。

#### (3) ガストフロント

積雲や積乱雲から吹き出した冷気先端と周囲の空気との境界で、しばしば突風を伴う。降水域から前線状に広がるのが多く、数 10km あるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。地上では、突風と風向の急変、気温の急下降と気圧の急上昇が観測される。

#### (4) じん旋風

晴れた日の昼間に地上付近で発生する鉛直軸を持つ強い渦巻きで、突風により巻き上げられた砂じんを伴う。竜巻と違い積雲や積乱雲に伴わず、地上付近の熱せられた空気の上昇によって発生する。

#### (5) 漏斗雲

竜巻と同様の現象だが、渦は地上または海上に達しておらず、地表付近で突風は生じない。

#### (6) その他の突風

自然風は絶えず強くなったり弱くなったり変化しており、その中で一時的に強く吹く風をいう。また、これ以外にガストフロントの中で発生する旋風などもある。

日本版改良藤田スケール(JEFスケール)

米国シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された藤田スケールを、日本国内で発生する竜巻等突風の強さをよりの確に把握できるようにするため、米国の改良スケールを参考にしつつ、日本の建築物等の特徴を加味し、最新の風工学の知見を取り入れて策定した風速のスケールです。

階級	風速 (m/s) の範囲 (3 秒値)	主な被害の状況 (参考)
JEF0	25—38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、目視でわかる程度の被害、飛散物による窓ガラスの損壊が発生する。比較的狭い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。</li> <li>・園芸施設において、被覆材(ビニルなど)がはく離する。パイプハウスの鋼管が変形したり、倒壊する。</li> <li>・物置が移動したり、横転する。</li> <li>・自動販売機が横転する。</li> <li>・コンクリートブロック塀(鉄筋なし)の一部が損壊したり、大部分が倒壊する。</li> <li>・樹木の枝(直径 2cm～8cm)が折れたり、広葉樹(腐朽有り)の幹が折損する。</li> </ul>
JEF1	39—52	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、比較的広い範囲の屋根ふき材が浮き上がったり、はく離する。屋根の軒先又は野地板が破損したり、飛散する。</li> <li>・園芸施設において、多くの地域でプラスチックハウスの構造部材が変形したり、倒壊する。</li> <li>・軽自動車や普通自動車(コンパクトカー)が横転する。</li> <li>・通常走行中の鉄道車両が転覆する。</li> <li>・地上広告板の柱が傾斜したり、変形する。</li> <li>・道路交通標識の支柱が傾倒したり、倒壊する。</li> <li>・コンクリートブロック塀(鉄筋あり)が損壊したり、倒壊する。</li> <li>・樹木が根返りしたり、針葉樹の幹が折損する。</li> </ul>
JEF2	53—66	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、上部構造の変形に伴い壁が損傷(ゆがみ、ひび割れ等)する。また、小屋組の構成部材が損壊したり、飛散する。</li> <li>・鉄骨造倉庫において、屋根ふき材が浮き上がったり、飛散する。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通自動車(ワンボックス)や大型自動車が横転する。</li> <li>・鉄筋コンクリート製の電柱が折損する。</li> <li>・カーポートの骨組が傾斜したり、倒壊する。</li> <li>・コンクリートブロック塀(控壁のあるもの)の大部分が倒壊する。</li> <li>・広葉樹の幹が折損する。</li> <li>・墓石の棹石が転倒したり、ずれたりする。</li> </ul>
JEF3	67—80	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木造の住宅において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・鉄骨系プレハブ住宅において、屋根の軒先又は野地板が破損したり飛散する、もしくは外壁材が変形したり、浮き上がる。</li> <li>・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが比較的広い範囲で変形する。</li> <li>・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的狭い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> <li>・鉄骨造倉庫において、外壁材が浮き上がったり、飛散する。</li> <li>・アスファルトがはく離・飛散する。</li> </ul>
JEF4	81—94	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工場や倉庫の大規模な庇において、比較的広い範囲で屋根ふき材がはく離したり、脱落する。</li> </ul>
JEF5	95—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄骨系プレハブ住宅や鉄骨造の倉庫において、上部構造が著しく変形したり、倒壊する。</li> <li>・鉄筋コンクリート造の集合住宅において、風圧によってベランダ等の手すりが著しく変形したり、脱落する。</li> </ul>

## 日本版改良藤田スケールに関するガイドライン

[https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221\\_kentoukai/guideline.pdf](https://www.data.jma.go.jp/stats/data/bosai/tornado/kentoukai/kaigi/2015/1221_kentoukai/guideline.pdf)

## 謝辞

この調査資料を作成するにあたり、関係機関はじめ調査にご協力をいただいた皆様に御礼申し上げます。

本報告の地図は、国土地理院発行の『電子地形図(タイル)』を複製したものです。

本資料に関する問合せ先  
秋田地方气象台  
電 話 018-864-3955